

## 福岡・近畿パーキンソン病研究の結果 アルコール摂取とパーキンソン病リスクとの関連

**背景：**一部の疫学研究でアルコール摂取とパーキンソン病リスクとの間に予防的な関連が報告されていますが、多くの研究で関連を認めておりません。

**方法：**症例群は UK Parkinson's Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の患の内、過去に飲酒歴のある 32 名を除いた 214 名としました。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学または宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されておらず、過去に飲酒歴のある 37 名を除いた 327 名としました。性別、年齢、居住地域、喫煙、教育歴、アルコール・フラッシング、高血圧、高脂血症、糖尿病とカフェイン、コレステロール、ビタミン E、ビタミン B6 及び鉄摂取、グリセミック・インデックスを補正しました。

**結果：**人生で最もお酒を飲んでいた時のアルコール摂取頻度、アルコールの一日当たりの摂取量、アルコールの週当たりの摂取量ともパーキンソン病リスクと関連はありませんでした。アルコールの種類別に解析したところ、日本酒のみ一日当たりの摂取量と有意な正の関連を認めました。

最もお酒を飲んでいた 時の摂取量／日	n (%)		補正オッズ比
	症例群(N = 214)	対照群(N = 327)	
日本酒からのアルコール			
Non-drinker	146 (68.2)	261 (79.8)	1.00
0.1-65.9	58 (27.1)	59 (18.0)	<b>2.27 (1.34-3.89)</b>
≥ 66.0	10 (4.7)	7 (2.1)	<b>3.39 (1.10-11.0)</b>
<i>P</i> for trend			<b>0.001</b>

**結論：**日本人において日本酒摂取はパーキンソン病のリスク上昇と関連しているのかもしれない。

**出典：** Fukushima W, Miyake Y, Tanaka K, Sasaki S, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Miki T, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M, Fukuoka Kinki Parkinson's Disease Study Group. Alcohol drinking and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan. BMC Neurology. 2010; 10: 111.